

研究に関する情報公開

＜人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針＞に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者※の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧いただくことができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には試料・情報を使用いたしませんので、その際は下記の＜お問い合わせ窓口＞までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

＜研究課題名＞ 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症における発症時期の季節性と臨床像の検討
＜研究機関・研究責任者名＞ 日本大学医学部内科学系血液膠原病内科分野（附属板橋病院リウマチ・膠原病内科）中村英樹
＜研究期間＞ 機関の長の初回許可日 ～ 令和 8 （西暦 2026）年 12 月 31 日
＜対象となる方＞ 当院で 2015～2025 年に好酸球性多発血管炎性肉芽腫症と診断された方
＜研究の目的＞ 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(EGPA)は好酸球増多を伴い全身の小動脈に炎症が生じる病気です。アレルギー性疾患(喘息やアレルギー性鼻炎)が先行することが本疾患の特徴ですが、花粉症などの季節性アレルゲンが誘因になるかはよくわかっていません。本研究では、環境因子と EGPA の病態形成の関連を明瞭化することで、発症の予見、重症病変の早期発見に向けた病態層別化・個別化医療への寄与が期待されます。
＜研究の方法＞ 本研究では、当院で診断・治療を受けられた患者さんの経過をカルテに基づいて振り返り、血管炎の症状が初めて現れた時期を特定します。それぞれの症例を発症月ごとの 12 グループ、および春夏秋冬の 4 グループに分類した上で、発症した季節によって臓器障害や血液検査の結果にどのような違いがあるかを解析します。また、アレルギー検査の結果が得られている症例については個別のアレルゲンと発症時期との間に関連があるかについても詳しく調査を行います。
＜研究に用いる試料・情報の項目＞ 診療記録より、年齢、性別、X線写真、心臓 MRI、心臓超音波検査の結果、心電図、血液検査データ（自己抗体など）、病理組織、身体所見を使用いたします。
＜お問い合わせ窓口＞ 日本大学医学部附属板橋病院（東京都板橋区大谷口上町 30-1） リウマチ・膠原病内科 氏名：浅谷真也 電話：03-3972-8111 内線：(医局) 2403

※研究対象者とは、以下に該当する方（死者を含む。）を指します。

①研究を実施される方

②研究に用いられることとなる既存試料・情報を取得された方